

五月になると……

永井正子

入園式の日は皆、緊張した面持でお母様にくっついていました。お友達と仲良くなって、早く幼稚園が好きになってほしいものと、ひとりひとり顔を見ながら、祈るような気持ちであったという間に一月が過ぎてしまいます。以前受け持った三歳児の子供たちはどんなだったかしらと、古い日誌をめくってみました。



四月生れのSちゃんは、とてもしっかりしています。入園式の次の日から、自分の好きな遊びをペックと見つけて、よく遊びます。泣いている子を見て、「なんであんなに泣くの？」と、不思議そうに聞きました。

五月生れのK君。無表情ながら、黙々と遊びま

す。入園式から六週間程たった頃、Sちゃんと二人で、「ひこうきだー！ ブーン ブーン……」と言いながらとびまわり、初めてニコニコ顔を見せてくれました。

Tくん。幼稚園にいくと、泣きっ放し。十時を過ぎた頃「もうがまんできない！」と言いながら、改めて泣き出すのです。一週間ばかり泣き続けたのですが、ある日、お母様が帰ってしまったあとしばらくして泣き止んで、それからお友達のをばまで行って遊び始めました。クレヨンで画用紙にグルグル巻きを描きながら「おかあさん、おむかえにきてくれるよね」と何度も念を押し、やっと安心した様子で遊んでいます。あとで、部屋の片隅でまだ泣いているM君を見て、「どうして泣いているの？」と質問し

ました。

一月生れのYちゃん。毎日張り切って幼稚園に来ていますと、お母様はとても喜んでいきます。確かに元氣よく遊んでいる様に見えるけれど、彼女の言葉はひどく大人びていて、変なのです。「えをかいていいですか」「おそとにいてもいいですか」「おてあらいにいてもいいですよ」……幼稚園に通い始めて五週目が過ぎる頃から、少しずつ言葉が変化してきて、お友達との会話を聞いていても違和感があまり感じられなくなってきました。よかった、やっと幼稚園に慣れてきてくれたのかしらと思っておりましたら、お母様からの報告がありました。「始めは張り切って出かけていましたのに、この頃出がけにぐずるんです。」

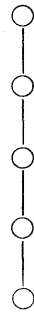
入園当初は

○ 自分の気持ちが出せないで、緊張したまま遊びだす

○ 不安がいっぱい泣いてしまう

○ ほとんど気にしないで、マイペースで遊び出す

など、いろいろな反応を示していた子供たち、幼稚園に通う日数が増えるにつれて、次第に新しい環境に慣れ、本来の自分の姿を取り戻してきたようでした。



さて、今年幼稚園に入ってくる三歳児の人たちは、どんなふうに幼稚園を受け止め、新しい環境に對してどんな反応をするのでしょうか。まず緊張をほぐし、自分の有りのままをぶつけて幼稚園（お友達・先生・お庭にいるうさぎさん・お友達のお母様たち・お部屋のおもちゃ・そのほか幼稚園に關係あるもの全部）と出合い、馴染んでほしいと願っています。

今までは、傍らでただ見ているのが精一杯でした。今度は小さいお友達に、私も何かお手伝いが出るかしら……どこまでお手伝いすべきか、また、どこでじつとがまんして見守るのがより良いのかしらと、悩み悩みで五月が過ぎていきます。

（お茶の水女子大学附属幼稚園）